



掛川市民オーケストラの演奏で第九を歌う牧之原市民合唱団

力強い歌声がホールに響く

■第九コンサート

市制施行10周年記念「第九コンサート」が11月22日、い〜らで開催されました。

牧之原市民合唱団がベートーヴェンの「歓喜の歌」を披露。掛川市民オーケストラが「交響曲第九番二短調作品125」の第一楽章から第四楽章まで演奏し、合唱団が第四楽章から全編ドイツ語で歌い上げると、大きな歌声と拍手が送られました。

また、牧之原市吹奏楽団と榛原高校吹奏楽部による演奏や、会場の全員で牧之原市の歌「うみ・そら・みどり牧之原」の合唱もされました。

元気と活力あふれる

■まきのはら産業フェア2015

「まきのはら産業フェア2015」が11月22日、相良小学校グラウンドなどで開かれました。

市内の事業所や各種団体、姉妹都市の長野県松川町、友好都市の熊本県人吉市や青森県三戸町など、84団体が販売や展示を行いました。

会場では、各ブースでの特産品やまきのはら茶づけなどの販売、子ども向け職業体験「わくわくワーク」、牧之原プロレスの試合、ステージでのキッズダンスや開運餅投げなどが行われ、多くの来場者でにぎわいました。



多くの来場者でにぎわう会場

海上安全と無病息災を祈って

■鹿島神社の御船神事

市指定無形民俗文化財「鹿島神社の御船神事」が、11月8日に行われました。

江戸後期から続く鹿島神社（川崎区）の例祭は、海上安全を祈って行われる神事です。

鹿島の若衆たちは、小雨が降る中、菱垣廻船の模型を担ぎ、威勢よく荒波を乗り越え航海をする様子を表現しました。

子どもを菱垣廻船の模型に乗せると、けがや病気になることもいわれており、若衆らが子どもたちを御船に乗せ、無病息災を祈りました。



子どもたちを御船に乗せ無病息災を祈る



親子で里山を歩き木の実などを採取

地域の自然を守り、伝えたい

■「めだかの会」設立20周年記念行事

地頭方地区は、絶滅危惧種に指定されているめだかの保護育成と、子どもたちがふるさとの自然の中でのびのび遊べる環境づくりを目的として、平成7年に「めだかの会」を設立。今年で設立20周年を迎え、11月1日に記念行事を開催しました。

記念行事では、常葉大学教授の山田辰美先生による講演会「子どもを支える地域の力」や、地域の里山を歩き採取したどんぐりや植物などを使った作品づくりも行われ、地域の皆さんや学校・幼稚園・保育園関係者など50人が参加しました。

広報担当がどこにでも取材に行きます。あなたの身近にあるホットで楽しい話題やイベントなどの情報をお待ちしています。

秘書広報課 ☎0052 ✉seisaku@city.makinohara.shizuoka.jp

ズームイン！  
カシャ！！



受賞式に参加した市長や市民など関係者の皆さん

これまでのまちづくりがグランプリ

■第10回マニフェスト大賞

11月6日、第10回マニフェスト大賞授賞式において、牧之原市長が首長部門の部でグランプリを受賞しました。

各界各総の市民の皆さんが関わりつくり上げた「第2次牧之原市総合計画」は、全国に先駆けて作成した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の全国モデルとして、大きな評価をされました。

また、今回のマニフェスト大賞では、茶々若会や近隣市と一緒にしている研究会も、優秀賞を受賞しました。

西原市長は「市誕生から10年間、市民と共に取り組んできた“対話による協働のまちづくり”が高く評価され、受賞となったことが大きな喜びである」と話してくれました。

自然を愛する心を育む

■フラワーブラボーコンクール

萩間小学校が、平成27年度フラワーブラボーコンクール（FBC）秋花壇の部で大賞を受賞し、11月24日、市役所相良庁舎を訪れ市長に受賞の喜びを報告しました。

FBCは、学校での花づくりを教育に生かすことを目的に行われています。

花いっぱい委員会委員長の飯山奈津紀さんらは「大賞を目指して、みんなで協力して水やりとかを頑張りました。受賞できてとてもうれしい」と喜びを報告しました。



小学生の力作を見る来場者



西原市長に受賞の喜びを報告する児童ら

芸術の秋を楽しむ

■第10回牧之原市文化祭

第10回牧之原市文化祭が10月31日と11月1日、静波体育館や榛原文化センターなどで開催されました。

市文化協会会員をはじめ、日ごろから創作活動をしている市民や園児、小中学生、高校生らの絵画や書道、水墨画、俳句、写真など、多くの力作が展示され、活動の成果が披露されました。

また、茶会やお茶の手揉み実演、囲碁・将棋大会、ひまわり号おはなし隊による読み聞かせなども行われ、来場者は芸術の秋を楽しんでいました。